

IV 広域連携協働

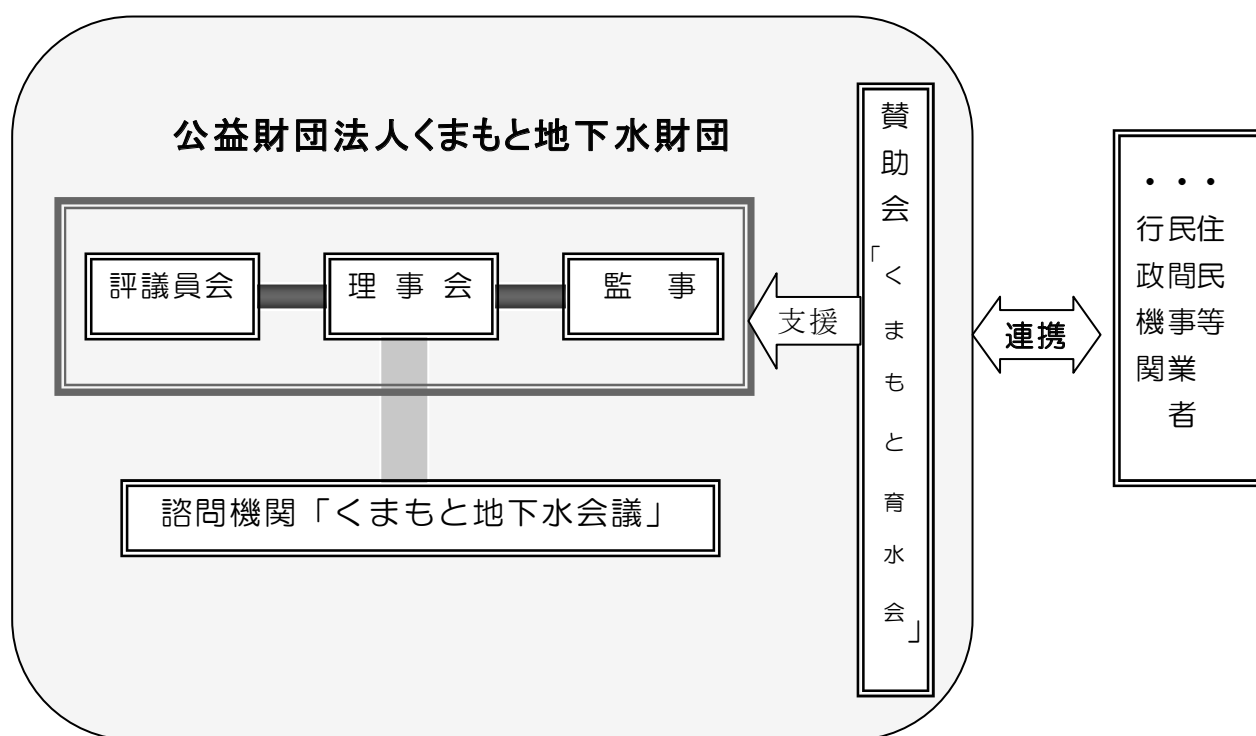
1 広域水保全体制の運営

本市を含む近隣11市町村（熊本地域）は、ひとつの地下水プールを共有しており、県や関係市町村及び民間と連携し、市町村域を越えて広域的に地下水保全対策を行っています。

平成23年度まで「熊本地域地下水保全対策会議」「(財)熊本地下水基金」「熊本地域地下水活用協議会」の3組織により地下水保全対策に取り組んでいましたが、熊本地域地下水保全対策会議において上記の組織を統合する方針が提起され、(財)熊本地下水基金を母体に公益財団法人を設立し、既存団体の目的や事業等に移管するとともに、専門家等の指導助言を求めながら、熊本地域の地下水環境の向上に取り組むこととなり、平成24年4月に「公益財団法人 くまもと地下水財団」が発足しました。

「くまもと地下水財団」は、評議会・理事会・監事の3つの法定機関と諮問機関「くまもと地下水会議」及び賛助会「くまもと育水会」の2つの任意組織で構成されています。現在、下記のような事業に取り組んでいます。

【組織】



【事業】

- | | |
|-------------------|---|
| ①地下水環境調査研究事業…………… | 地下水の流動など地下水の仕組みを解析し、各事業の効率・効果的な展開の基礎となる調査事業 |
| ②地下水質保全対策事業…………… | 市町村単位の硝酸性窒素削減計画の作成支援、汚染物質の削減対策事業 |
| ③地下水涵養推進事業…………… | 水田湛水や雨水浸透施設の設置を助成する涵養事業 |
| ④地下水採取・使用適正化推進事業… | 量水器の設置助成や節水等の啓発事業 |

2 白川中流域交流連携

白川中流域の農業と農業が果たす地下水かん養の重要性について、大津町、菊陽町及び熊本市の住民の相互理解を深め、また交流を促進し、以って地下水の保全を図ることを目的に、「地下水を育む白川中流域水田での米づくり体験事業」「親子わくわく水環境ツアー」「田んぼの学校 in 白川中流域」の3事業を実施してきました。なお、「地下水を育む白川中流域水田での米づくり体験事業」「親子わくわく水環境ツアー」については、平成19年度をもって終了しました。

白川中流域交流連携事業

事業名	地下水を育む 白川中流域水田での 米作り体験事業	親子わくわく 水環境ツアー	田んぼの学校 in 白川中流域
目 的	熊本市在住の親子等を対象に、白川中流域において、中流域農家の協力を得ながら行う米づくり体験を通し、白川中流域の水田と地下水の関わりについて学ぶ。	白川中流域（大津町、菊陽町）の親子を対象に、水に関わる施設の見学を通し、白川中流域の農業と地下水の繋がりを学習すると共に、交流促進や相互理解を深める。	熊本市と白川中流域（大津町、菊陽町）の小学生を対象に、水の学習や農業体験等を通じ、白川中流域の水田と地下水の関わりについて理解を深めると共に、上下流域間の交流促進や相互理解を深める。
開催場所	菊陽町、大津町	熊本市、大津町、菊陽町外	熊本市、大津町、菊陽町
実施年度	平成16年度～平成19年度 (5月～11月に計6回開催) ※H16のみ7回開催	平成16年度～平成19年度 (10月開催)	平成15年度～実施中 (年2回開催)
実施主体	熊本市	熊本市	白川中流域 水土里ネット協議会
協力等	(後援) 菊陽町、大津町、JA 菊池、 白川中流域土地改良区協議会、豊かな地下水を育む ネットワーク	(協力) 菊陽町 菊陽町教育委員会 大津町 大津町教育委員会	(共催) 水土里ネット熊本、 熊本市、熊本県、大津町、 菊陽町、熊本市・大津町・ 菊陽町教育委員会、JA 菊池
事業実績	平成19年度実績 ・菊陽町にて開催 ・5家族16人参加 計6回実施 延べ50人参加	平成19年度実績 ・菊陽町26名参加	平成26年度実績 ・熊本市延べ99名参加 ・菊陽町延べ32名参加

3 水源の森づくりボランティア活動

近年、森林の持つ多面的機能に対する市民の期待とともに、市民参加型の森林づくりの機運が高まっています。そこで、市民が主体となり、森林ボランティア活動を通じ、地下水が貴重な資源であることを認識し、森林の公益性が重要な地下水の保全対策であるとの理解のもとに、森林保全の活性化に資する「森林ボランティア」を育成しています。

平成26年度は、第5期（平成25年度～27年度）の「水源の森づくりボランティア育成講座」を実施し、大津町、南阿蘇村において森林作業（下刈、間伐・枝打、植付等）及びふれあい活動（林業現場体験や講座学習、木工体験（本立て作り）等）を実施しました。

また、平成24年は講座受講生により結成されたボランティア団体の活動が評価され、公益財団法人からの表彰を受けるなど、「水源の森ボランティア育成講座」の受講を契機とした、市民による森林づくりへの取り組みの広がりが、ひとつの成果をみた年でもあります。